

記載例 1

(一般向け)

- 記入にあたっては、黒のボールペン又は万年筆で楷書により丁寧に記入し、消しゴム等でインクが消えるボールペンは使用しないでください。
- 記載内容を訂正する場合は、訂正する部分を二重線で抹消し、正しいものを記入してください（訂正印不要、修正液・修正テープ使用不可）。

平成30年公認会計士試験受験願書 (第Ⅱ回短答式試験用)

— 必須
- - - 該当者
— 事務局使用欄

受 験 番 号
関 東 財 務 局 財 務 支 局 第 号
総 合 事 務 局 (記入しないこと。)

事務局使用欄のため、記入しないでください。

収入印紙貼付
19,500 円分 (消印しないこと。)

10,000 円 4,000 円
5,000 円 500 円

19,500円分の収入印紙を重ならないように貼付。

- 「氏名」及び「生年月日」は、正確に（外国籍の方は在留カードのとおり）誰でも分かるような字で丁寧に記入。
- 受験願書に記載した氏名と添付書類（免除通知書のコピー等）の氏名が異なる場合は、戸籍抄本（原本）を添付。

公認会計士・監査審査会会長 殿
平成 30 年 2 月 日
平成 30 年公認会計士試験（第Ⅱ回短答式試験）を受験したいので申込みます。

ふりがな かいけい たろう	生年月日 明治 大正 昭和 平成 63年 9月 17日 (年齢 29歳)	住所 〒000-0000 東京都千代田区霞が関0-0-0 〇〇アパート101号 (TEL (自宅) 00-0000-0000 (携帯) 000-0000-0000)
氏名 会計 太郎 (大きな字で丁寧に記入すること)	性別 (男) ・ 女	緊急連絡先 (勤務先・留省先) その他・なし (TEL 000-0000-0000)
旧姓 (改姓年月 年 月)		

「申込日（受験願書受付期間内の日付に限る）」を記入。

「申込日」現在の年齢を記入。

- 「受験票」「合格証書」等の郵便物が確実に到着する住所（都道府県名省略可）を、40文字以内（濁点、ハイフン等も1文字）で記入。
- 郵便番号は必ず記入。なお、マンション等にお住まいの方は建物名と部屋番号も必ず記入すること。
- 「TEL」は確実に連絡が取れる電話番号を記入。受験願書の記載事項等について、急ぎの照会をする場合があります。
- 自宅の電話番号に加えて、携帯電話がある場合には携帯電話の電話番号も記入。

短答式試験免除申請
短答式試験の { 全科目 } について免除を申請します。
(上記の「全科目」又は「一部科目」のうち、該当する方を○で囲むこと。)

論文式試験免除申請
論文式試験の一部科目について免除を申請します。

氏名

(旧第2次試験合格者は、「短答式試験免除申請」欄には記入しないこと。ただし、論文式試験について免除を申請する場合は、「論文式試験免除申請」欄に氏名を記入すること。)

(注) 受験願書等に記載等された個人情報、公認会計士試験の実施及び統計目的以外に使用しませんが、合格者の個人情報については、公認会計士となるための手続における本人確認のために日本公認会計士協会及び内閣総理大臣の認定する実務補習団体等へ提供するほか、当局による意識調査のためのアンケートに使用することがあります。

受験整理表は、受験願書の裏面又は受験案内(P 26 ~ 27)に記載されている「コード番号表」を見ながら記載。

受験整理表 (別添記載例を参照して記入すること。)

年	受験番号		氏 名 (カタカナ)				②生年月日		③性別	④職業	⑤学歴	⑥論文式試験選択科目											
	①受験局	(記入しないこと。)	(カタカナにより左詰めで書くこと。また、姓と名の間は1字あけ、濁点、半濁点は1字とすること。)				年	月				日	経営学	経済学	民法	統計学							
30	012		カ	イ	ケ	イ	3	6	3	0	9	1	7	1	0	4	0	5	1				

事務局使用欄のため、記入しないでください。

短答式試験 免除項目				論文式試験 免除項目				免除通知書番号等							
⑦免除を受ける科目	財務	管理	監査論	企業法	⑧免除を受ける科目	会計学	監査論	企業法	租税法	選択科目	⑪旧第2次試験合格証書番号(会計士補等)	⑫短答式試験合格通知書番号(平成28年試験以降合格分)	⑬論文式試験一部科目免除資格通知書番号その1(平成29年試験分)	⑭論文式試験一部科目免除資格通知書番号その2(平成28年試験分)	⑮その他の免除通知書番号
										経営学 経済学 民法 統計学					

(⑪~⑮に該当する場合は免除通知書等のコピーの添付が必要です。)

※ 「受験願書 (控)」「写真票」「受験票」についても必要事項をみれなく記入（「受験票」の裏面も記入してください）。

記載例 2

(会計専門職大学院修了者
(見込者)向け)

- 記入にあたっては、黒のボールペン又は万年筆で楷書により丁寧に記入し、消しゴム等でインクが消えるボールペンは使用しないでください。
- 記載内容を訂正する場合は、訂正する部分を二重線で抹消し、正しいものを記入してください(訂正印不要、修正液・修正テープ使用不可)。

平成30年公認会計士試験受験願書 (第Ⅱ回短答式試験用)

— 必須
- - - 該当者
— 事務局使用欄

受 験 番 号
關 東 財 務 局 財 務 支 局 第 号
総 合 事 務 局 (記入しないこと。)

事務局使用欄のため、記入しないでください。

収入印紙貼付
19,500円分(消印しないこと。)

10,000円 4,000円

5,000円 500円

公認会計士・監査審査会会長 殿
平成30年公認会計士試験(第Ⅱ回短答式試験)を受験したいので申込みます。

「申込日(受験願書受付期間内の日付に限る)」を記入。

ふりがな かいけい たろう 生年月日 平成 63年 9月 17日 住所 〒000-0000 東京都千代田区霞が関0-0-0 〇〇アパート101号

氏名 会計 太郎 (大きな字で丁寧に記入すること)

ふりがな (年齢 29歳)

旧姓 (改姓年月 年 月)

性別 (男) ・ 女 緊急連絡先 (勤務先・自宅) (TEL 000-0000-0000)

「申込日」現在の年齢を記入。

短答式試験免除申請
短答式試験の{全科目}について免除を申請します。
(上記の「全科目」又は「一部科目」のうち、該当する方を○で囲むこと。)

氏名 会計 太郎

論文式試験免除申請
論文式試験の一部科目について免除を申請します。

氏名

- 「受験票」「合格証書」等の郵便物が確実に到着する住所(都道府県名省略可)を、40文字以内(濁点、ハイフン等も1文字)で記入。
- 郵便番号は必ず記入。なお、マンション等にお住まいの方は建物名と部屋番号も必ず記入すること。
- 「TEL」は確実に連絡が取れる電話番号を記入。受験願書の記載事項等について、急ぎの照会をする場合があります。
- 自宅の電話番号に加えて、携帯電話がある場合には携帯電話の電話番号も記入。

(注) 受験願書等に記載等された個人情報、公認会計士試験の実施及び統計目的以外に使用しませんが、合格者の個人情報については、公認会計士となるための手続における本人確認のために日本公認会計士協会及び内閣総理大臣の認定する実務補習団体等へ提供するほか、当局による意識調査のためのアンケートに使用することがあります。

19,500円分の収入印紙を重ならないように貼付。

- 「氏名」及び「生年月日」は、正確に(外国籍の方は在留カードのとおり)誰でも分かるような字で丁寧に記入。
- 受験願書に記載した氏名と添付書類(免除通知書のコピー等)の氏名が異なる場合は、戸籍抄本(原本)を添付。

免除を受ける場合には、氏名を記入。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

「⑦免除を受ける科目」及び「⑧免除要件」について、右の記載例のとおり記入。

受験整理表 (別添記載例を参照して記入すること。)

年	受験番号		氏 名 (カタカナ)				②生年月日		③性別	④職業	⑤学歴	⑥論文式試験選択科目												
	①受験局	(記入しないこと。)	(カタカナにより左詰めで書くこと。また、姓と名の間は1字あけ、濁点、半濁点は1字とすること。)				年	月				日	経営学	経済学	民法	統計学								
30	012		カ	イ	ケ	イ	3	6	3	0	9	1	7	1	0	8	0	2			1			

- 本人の連絡先以外の緊急連絡先を必ず記入。
- 「住所」欄の「TEL」以外に緊急連絡先がない場合には、「なし」を○で囲む。

受験整理表は、受験願書の裏面又は受験案内(P26~27)に記載されている「コード番号表」を見ながら記入。

短答式試験 免除項目				論文式試験 免除項目				免除通知書番号等													
⑦免除を受ける科目	⑧免除要件	⑨免除を受ける科目	⑩免除要件	選択科目				⑪旧第2次試験合格証書番号(会計士補等)	⑫短答式試験合格通知書番号(平成28年試験以降合格分)	⑬論文式試験一部科目免除資格通知書番号その1(平成29年試験分)	⑭論文式試験一部科目免除資格通知書番号その2(平成28年試験分)	⑮その他の免除通知書番号									
財務会計論 1	管理会計論 1	監査論 1	企業法	会計学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学					*	*	*	*	*	*

修了見込者は、条件付免除通知書の右上に記載されている6桁の番号を記入。

- 【願書の添付書類】
- 修了者は、「公認会計士試験免除通知書」のコピーを添付。

- 修了見込者は、「条件付免除通知書」の原本を添付。

- 免除資格を取得している試験科目のうち、今回の試験で免除を受けずに「受験する科目」があるときは、免除通知書のコピー又は条件付免除通知書の「免除を受けられる試験科目」のうち、「受験する科目(免除を受けない科目)」を必ず二重線で抹消。

(⑪~⑭に該当する場合は免除通知書等のコピーの添付が必要です。)

※ 「受験願書(控)」、「写真票」、「受験票」についても必要事項をみれなく記入(「受験票」の裏面も記入してください)。

記載例 3

(短答式試験合格者向け)

- 記入にあたっては、黒のボールペン又は万年筆で楷書により丁寧に記入し、消しゴム等でインクが消えるボールペンは使用しないでください。
- 記載内容を訂正する場合は、訂正する部分を二重線で抹消し、正しいものを記入してください（訂正印不要、修正液・修正テープ使用不可）。

平成30年公認会計士試験受験願書 (第Ⅱ回短答式試験用)

— 必須
- - - 該当者
— 事務局使用欄

受 験 番 号
関 東 財 務 局 財 務 支 局 第 号
総 合 事 務 局 (記入しないこと。)

事務局使用欄のため、記入しないでください。

収入印紙貼付
19,500円分(消印しないこと。)

10,000円	4,000円
5,000円	500円

公認会計士・監査審査会会長 殿
平成30年公認会計士試験(第Ⅱ回短答式試験)を受験したいので申込みます。

ふりがな かいけい たろう	生年月日 明治 大正 昭和 平成 63年 9月 17日	住所 〒000-0000 東京都千代田区霞が関0-0-0 00アパート101号
氏名 会計 太郎 (大きな字で丁寧に記入すること)	(年齢 29歳)	(TEL(自宅) 00-0000-0000 (携帯) 000-0000-0000)
ふりがな	性別 (男) ・ 女	緊急連絡先 (上記の住所欄の電話番号以外で緊急の場合等の連絡先(電話番号)を記入し、ない場合は「なし」を○で囲むこと。)
旧姓 (改姓年月 年 月)		(勤務先: (省先) その他・なし) (TEL 000-0000-0000)

「申込日(受験願書受付期間内の日付に限る)」を記入。

「申込日」現在の年齢を記入。

- 「受験票」「合格証書」等の郵便物が確実に到着する住所(都道府県名省略可)を、40文字以内(濁点、ハイフン等も1文字)で記入。
- 郵便番号は必ず記入。なお、マンション等にお住まいの方は建物名と部屋番号も必ず記入すること。
- 「TEL」は確実に連絡が取れる電話番号を記入。受験願書の記載事項等について、急ぎの照会をする場合があります。
- 自宅の電話番号に加えて、携帯電話がある場合には携帯電話の電話番号も記入。

短答式試験免除申請
短答式試験の{全科目}について免除を申請します。
(上記の「全科目」又は「一部科目」のうち、該当する方を○で囲むこと。)

氏名 会計 太郎

論文式試験免除申請
論文式試験の一部科目について免除を申請します。

氏名 会計 太郎

(旧第2次試験合格者は、「短答式試験免除申請」欄には記入しないこと。ただし、論文式試験について免除を申請する場合は、「論文式試験免除申請」欄に氏名を記入すること。)

(注) 受験願書等に記載等された個人情報、公認会計士試験の実施及び統計目的以外に使用しませんが、合格者の個人情報については、公認会計士となるための手続における本人確認のために日本公認会計士協会及び内閣総理大臣の認定する実務補習団体等へ提供するほか、当局による意識調査のためのアンケートに使用することがあります。

19,500円分の収入印紙を重ならないように貼付。

- 「氏名」及び「生年月日」は、正確に(外国籍の方は在留カードのとおり)誰でも分かるような字で丁寧に記入。
- 受験願書に記載した氏名と添付書類(免除通知書のコピー等)の氏名が異なる場合は、戸籍抄本(原本)を添付。

- 免除通知書等を受け取った者で、免除を受ける場合は、各免除申請欄に氏名を記入。

- ただし、免除資格を有する者であっても、今回の試験で一切免除を受けずに受験する場合には記入しない。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

「⑦免除を受ける科目」及び「⑧免除要件」の全ての項目について、右の記載例を参考に記入。

【願書の添付書類】

- 平成28年試験以降の短答式試験合格による免除を受ける場合は、「公認会計士試験短答式試験合格通知書」のコピーを添付。
- その他の免除を受ける場合には、免除通知書等のコピーを添付。
- 免除資格を取得している試験科目のうち、今回の試験で免除を受けずに「受験する科目」があるときは、添付する免除通知書等のコピーに記載された「免除を受けられる科目」のうち、今回「受験する科目(免除を受けない科目)」を必ず二重線で抹消。

受験整理表 (別添記載例を参照して記入すること。)

年	受験番号		氏名(カタカナ)				②生年月日		③性別	④職業	⑤学歴	⑥論文式試験選択科目											
	①受験局	(記入しないこと。)	(カタカナにより左詰めで書くこと。また、姓と名の間は1字あけ、濁点、半濁点は1字とすること。)				年号	年				月	日	経営学	経済学	民法	統計学						
30	01	2	カ	イ	ケ	イ	3	6	3	0	9	1	7	1	0	4	0	5	1				

短答式試験 免除項目					論文式試験 免除項目					免除通知書番号等					
⑦免除を受ける科目	財務	管理	監査論	企業法	⑧免除を受ける科目	会計学	監査論	企業法	租税法	選択科目	⑪旧第2次試験合格証書番号(会計士補等)	⑫短答式試験合格通知書番号(平成28年試験以降合格分)	⑬論文式試験一部科目免除資格通知書番号その1(平成29年試験分)	⑭論文式試験一部科目免除資格通知書番号その2(平成28年試験分)	⑮その他の免除通知書番号
	1	1	1	1						経営学 経済学 民法 統計学		*****	*****	*****	
⑧免除要件	0	5	0	5	0	5	0	5	0	5					

短答式免除と同時に、「⑨免除を受ける科目」及び「⑩免除要件」の免除を受ける場合には、上の記載例を参考に記入。

記入しないでください。

通知書の右上に記載されている6桁又は7桁の番号を、右詰めで記入。

受験整理表は、受験願書の裏面又は受験案内(P26~27)に記載されている「コード番号表」を見ながら記入。

※ 「受験願書(控)」「写真票」「受験票」についても必要事項をみれなく記入(「受験票」の裏面も記入してください)。

記載例 4

(旧第2次試験合格者向け)

- 記入にあたっては、黒のボールペン又は万年筆で楷書により丁寧に記入し、消しゴム等でインクが消えるボールペンは使用しないでください。
- 記載内容を訂正する場合は、訂正する部分を二重線で抹消し、正しいものを記入してください（訂正印不要、修正液・修正テープ使用不可）。

平成30年公認会計士試験受験願書 (第Ⅱ回短答式試験用)

— 必須
- - - 該当者
— 事務局使用欄

受 験 番 号
関 東 財 務 局 財 務 支 局 第 号
総 合 事 務 局 (記入しないこと。)

事務局使用欄のため、記入しないでください。

「申込日（受験願書受付期間内の日付に限る）」を記入。

「申込日」現在の年齢を記入。

19,500円分の収入印紙を重ならないように貼付。

- 「氏名」及び「生年月日」は、正確に（外国籍の方は在留カードのとおり）誰でも分かるような字で丁寧に記入。
- 受験願書に記載した氏名と添付書類（免除通知書のコピー等）の氏名が異なる場合は、戸籍抄本（原本）を添付。

収入印紙貼付
19,500円分 (消印しないこと。)

10,000円 4,000円

5,000円 500円

記入しないでください。

公認会計士・監査審査会会長 殿
平成30年公認会計士試験（第Ⅱ回短答式試験）を受験したいので申込みます。

ふりがな かいけい たろう 生年月日 平成 63年 9月 17日 住所 〒000-0000 東京都千代田区霞が関0-0-0 〇〇アパート101号

氏名 会計 太郎 (大きな字で丁寧に記入すること)

ふりがな (年齢 29歳)

旧姓 (改姓年月 年 月) 性別 (男) ・ 女 緊急連絡先 (勤務先・(留)省先) その他・なし (TEL 000-0000-0000)

- 「受験票」「合格証書」等の郵便物が確実に到着する住所（都道府県名省略可）を、40文字以内（濁点、ハイフン等も1文字）で記入。
- 郵便番号は必ず記入。なお、マンション等にお住まいの方は建物名と部屋番号も必ず記入すること。
- 「TEL」は確実に連絡が取れる電話番号を記入。受験願書の記載事項等について、急ぎの照会をする場合があります。
- 自宅の電話番号に加えて、携帯電話がある場合には携帯電話の電話番号も記入。

短答式試験免除申請
短答式試験の { 全科目 } について免除を申請します。
(上記の「全科目」又は「一部科目」のうち、該当する方を○で囲むこと。)

氏名

論文式試験免除申請
論文式試験の一部科目について免除を申請します。

氏名 会計 太郎

(旧第2次試験合格者は「短答式試験免除申請」欄には記入しないこと。ただし、論文式試験について免除を申請する場合は、「論文式試験免除申請」欄に氏名を記入すること。)

- 本人の連絡先以外の緊急連絡先を必ず記入。
- 「住所」欄の「TEL」以外に緊急連絡先がない場合には、「なし」を○で囲む。

事務局使用欄のため、記入しないでください。

受験整理表 (別添記載例を参照して記入すること。)

年	受験番号		氏 名 (カタカナ)				②生年月日		③性別	④職業	⑤学歴	⑥論文式試験選択科目											
	①受験局 (記入しないこと。)	(記入しないこと。)	姓	名	姓	名	年	月				日	経営学	経済学	民法	統計学							
30	01	2	カ	イ	ケ	イ	3	6	3	0	9	1	7	1	0	1	0	5	1				

「⑦免除を受ける科目」及び「⑧免除要件」の全ての項目について、右の記載例を参考に記入。

短答式試験 免除項目					論文式試験 免除項目					免除通知書番号等					
⑦免除を受ける科目	財務	管理	監査論	企業法	⑧免除を受ける科目	会計学	監査論	企業法	租税法	選択科目	⑪旧第2次試験合格証書番号(会計士補等)	⑫短答式試験合格通知書番号(平成28年試験以降合格分)	⑬論文式試験一部科目免除資格通知書番号その1(平成29年試験分)	⑭論文式試験一部科目免除資格通知書番号その2(平成28年試験分)	⑮その他の免除通知書番号
	1	1	1	1		1		1	1	経営学 経済学 民法 統計学	*****		*****		
⑧免除要件	0	6	0	6	0	6	0	6	0	6					
						1	1	1	1	2					

受験整理表は、受験願書の裏面又は受験案内(P26~27)に記載されている「コード番号表」を見ながら記入。

合格証書番号を右詰めで記入。空欄が生じる場合は、「0」を記入。

通知書の右上に記載されている6桁の番号を記入。

【願書の添付書類】
● 旧第2次試験の「合格証書」のコピーを添付。

● このほか、免除を受けようとするものがある場合は、あらかじめ交付を受けた免除通知書等のコピーを添付。

● 免除資格を取得している試験科目のうち、今回の試験で免除を受けずに「受験する科目」があるときは、添付する免除通知書等のコピーに記載された「免除を受けられる科目」のうち、今回「受験する科目(免除を受けない科目)」を必ず二重線で抹消。

※ 「受験願書(控)」「写真票」「受験票」についても必要事項をみれなく記入（「受験票」の裏面も記入してください）。